

令和6年度 入学試験問題

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。

受験番号				氏名	
------	--	--	--	----	--

□ 次の文章をよく読んであとの問いに答えなさい。習っていない漢字にはひらがなで読みがなをふっています。なお、字数を指定している問題は、句読点やかぎかっこも一字と数えます。

話すことと、書くことは、どちらもことばを発信する行為という点で共通します。□ A、先に「話すとき」について述べた内容は、「書くとき」にも該当する部分があります。誤解を避けるため、大事なところで念を押したり、2度繰り返したりするといった方法は、文章を書くときにも有効です。

ただ、話すときに比べると、書くときにはハンディキャップがあります。□ *が見えないということです。

話をする人は、聞き手の頭の中までは分かりませんが、その表情や受け答えなどから、自分の話が理解されているか、あまり理解されていないかを①スイソクできます。理解されていないと判断したら、「分かりにくかったようなので、補足します」とつけ足すこともできます。聞き手の集中力が落ちていると思ったら、関係ない余談を入れて、気分転換を図ったりもします。

□ B、文章を書く場合、読者がどう反応しているかは、まったく分かりません。相手が誤解しているかどうかも②ケントウがつかえません。仕事などで行き違いがあった場合、メールで連絡するよりも、電話で連絡したほうが話が早くすむのはそのためです。相手の反応が分かりやすいのです。

読者の直接的な反応が分からないため、書くときには、①話すときは違った工夫が必要です。とりわけ大事なのは、「多義的なことば」を排除することです。

多義的とは、そのことばが多くの意味に解釈される③セイシツのことです。何年か前にネットで話題になったフレーズに、「頭が赤い魚を食べた猫」というのがあります。言語研究者の中村明裕さんが考えたもので、いろいろな意味に受け取られる、多義的なフレーズです。

②「頭が赤い魚を食べた猫」と言われたとき、頭が赤いのは、魚とも、また猫とも受け取られます。それだけでなく、想像をたくましくすれば、猫の頭がパカッと開いて赤色の魚を食べた可能性や、人の頭が猫になっていて、その猫が赤色の魚を食べた可能性、人の頭が真っ赤な色の猫になっていて、その猫が魚を食べた可能性などがあります。

会話で、「赤色の猫」を念頭に「赤い、魚を食べた猫」と発言し、相手から「赤い魚なの?」と言われれば、「いや、ごめん、赤いのは猫だよ」と訂正することができます。書きことばでは、③こうしたやりとりができません。そこで、話しことばよりも慎重に、ことばが多義的にならないように注意する必要があります。

私は、この第4章の冒頭を、次のように書き始めています。

「人と人がことばをやりとりすると、ちよつとしたことで『つまずき』が生まれます」

これは、**C**、あれこれ考えて書き直した文なのです。最初の文は、こういうのでした。

「人とことばをやりとりすると、ちよつとしたことで『つまずき』が生まれます」

これでもいいのかもしれない。ただ、「人とことばをやりとりする」というところが多義的だと感じられました。④この表現では「人」

【**】**『ことば』を、誰かとやりとりする』という意味に受け取られる余地があります。

読者によって、さまざまな読み方があります。文章の表現が悪いと、筆者の意図しない、とんでもない意味に受け取る人が出てくるかもしれません。そういう④ジタイを避けるため、ちよつとでも引つかかる表現があったら、つとめて修正していくのが⑤ノゾましい姿勢です。

(飯間浩明「NHK出版学びのきほんつまずきやすい日本語」)

問一 ㉔㉕㉖のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 **A** **C** に当てはまる最も適当な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ところが イ 実は ウ もし エ したがって

問三 * に当てはまる五字の言葉を本文中から探し、書きぬきなさい。

問四 ①「話すときとは違った工夫」とありますが、「話すとき」に行う工夫の具体的な例を、ひとつづきの二文で本文中から探し、はじめの五字を書きぬきなさい。

問五 ②「『頭が赤い魚を食べた猫』と言われたとき、頭が赤いのは、魚とも、また猫とも受け取られます」とありますが、「頭が赤い魚を食べた猫」という文を、「頭が赤いのは猫」だとわかるように、読点(「、」)を加えることにしました。正しく読点を加えられた文を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頭が、赤い魚を食べた猫 イ 頭が赤い、魚を食べた猫
ウ 頭が赤い魚を、食べた猫 エ 頭が赤い魚を食べた、猫

問六

——③「こうしたやりとり」とありますが、具体的にはどのようなことですか。それを説明した次の文の空らん当てはまる言葉を本文中からそれぞれ指定の字数で探し、書きぬきなさい。

自分が発言したときの相手の **あ(七字)** から、相手に正しく **い(八字)** と判断して、その場で訂正すること。

問七

——④「この表現では『人』【『ことば』を、誰かとやりとりする』という意味に受け取られる余地がありません」とありますが、「人とことばをやりとりする」という表現だどのようなように受け取られる可能性があるのですか。——④の【】に最も適当な言葉を入れたものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「人」または「ことば」を、誰かとやりとりする

イ 「人」か「ことば」を、誰かとやりとりする

ウ 「人」および「ことば」を、誰かとやりとりする

エ 「人」つまり「ことば」を、誰かとやりとりする

問八

この文章の内容と合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は、話すときはまず聞いている相手の好みやとらえ方をよく知る努力をしてから、相手に合った言葉を選ぶのがよいと述べている。

イ 筆者は、相手が話の内容をよく分かっていないようなときは、関係ない話をするこゝでその場の空気を変えるのがよいと述べている。

ウ 筆者は、聞き手のとらえ方は人それぞれであるから、誤解を生むのではないかと気になる表現は積極的に正すのがよいと述べている。

エ 筆者は、さまざまな意味でとらえられる文の例を示し、そのようなおもしろい文を作るためには言葉を慎重に選ぶのがよいと述べている。

二

次の文章をよく読んであとの問いに答えなさい。習っていない漢字にはひらがなで読みがなをふっています。なお、字数を指定している問題は、句読点やかぎかっこも一字と数えます。

小学五年生の佑は、両親と姉（理子・中学三年）との四人ぐらしです。同じ町内に母方の祖父が一人で住んでいます。元刑事の祖父は体も大きくしつかりしていましたが、祖母を亡くしてしばらく経ち、最近では認知症の症状も出てきたため、デイサービスを利用するようになっていました。佑はこの夏休み、デイサービスの様子をレポートにまとめるために、祖父につきそいながら、ヘルパーの林さんたちから学んでいます。

八月十三日、佑は祖父を含めた家族五人で、祖母のお墓参りに来た。祖母が亡くなってからは、お盆の墓参りは、毎年の恒例行事になっっている。

この日の祖父は、とても落ち着いていた。祖父の調子はいかわらず日替わりで、

「武田二課長を呼んできてくれ」

と、昔に戻っていたかと思えば、

「佑、夏休みの宿題は進んでいるのか」

と、**㊤**極めてまともな質問をしたりする。祖父の記憶は福引きのガラガラみたいだった。出てきた態度で、どの時代にいるのかを判断するしかなかった。

けれども、朝、迎えに行くと、

「今日は、おばあちゃんの墓参りだったな」

と、ちゃんと覚えていた。しかも準備までしていた。なんとお供えの和菓子まで買っていたのだ。これには家族全員驚いた。

「えー、おじいちゃん、買い物できたの？ しかもそれ、おばあちゃんの好物だよ。百点だね」

目を見開いた理子に、祖父は、

「あたり前だ」

と、鼻を鳴らして答えたほどだ。ただ、かぶった帽子は裏返しだった。

霊園は、車で二十分くらいのところにある。祖母のお墓は駐車場からはすぐなので、杖をついた祖父でも、ゆっくり歩く分には問題はなかった。

みんなでお墓の周りの草を抜き、墓石に水をかけた。祖父は、①よどみのない手つきで、和菓子を供え、お線香に火をつけた。そのしぐさには、品格さえ漂っていた。

「お墓っていう場所は、気持ちを落ち着かせるっていうからな」

「おばあちゃんの前で、かつこいいところを見せたいのよ」

両親も祖父の様子に、うれしそうな笑顔を浮かべていた。

そんなふうに完璧だった祖父が、突然奇行に出たのは、お参りをした直後のことだった。

手を合わせて頭をたれ、静かに目をつぶっていた祖父は、目を開けると、供えたばかりの和菓子のケースに手を伸ばした。そして荒

い手つきでふたを開け、入っていた**求肥**を。パクリと口に入れたのだ。

→白玉粉にさとうや水あめを加えて練り上げたもの。

「あーあ」

と②佑は肩を落とし、

「最後のところまで」

「おしかったな」

③両親は悔しがり、

「九十八点。つめが甘い」

④理子は受験生らしい指摘をした。

だが祖父は、口を **A** させたまま、杖をついて歩いていく。

「ちよ、どこに行くの？」

佑はあとを追いかけてながらたずねたが、返事はない。

「ごみは家に持って帰って捨てたらいいよ」

和菓子が入っていたケースを握っていたので、ごみ捨てなのかと思ったが、祖父は **B** 無言だ。

ジージー。

墓石に反響するのか、セミの声が大きくきこえる。

結局祖父は、霊園の行き止まりまで行きついでしまった。その先は林みたいに木がたくさん植えられていて、入れないように、竹で生垣が作ってあった。祖父は生垣の手前で座り込んだ。

「なにしてんの？」と、佑はもう一度きこうとしたが、やめた。ふと、林さんの言葉を思いだしたからだ。

「おじいちゃん、具合でも悪いの？」

心配して手を出そうとした理子を、佑は◎制した。

大丈夫。⑤こつちから見たら、わけがわからなくても、お年寄りのやっていることには、意味があるんだから」

林さんからの受け売りだ。

しばらく祖父は、→他人から得た知識をそのまま自分の知識のように話すこと。なにかを探すように、地面を点検していたが、

「おお、やっぱりいたな」

と言った。

「なにが？」

「セミの幼虫だ」

「セミの幼虫？」

「そこと、そこだ、佑」

「あ、ほんとだ」

祖父が指を差したところに、佑も割れていない殻からを見つけた。しかも二匹にひきも。

そんなものを探していたのか？

佑はちよつと⑥拍子ひょうし抜けした。意味があるのか、ないのか。

「ひとつは、おばあちゃんに持って行ってやろう」

でも祖父がそう言ったときだった。

「覚えてたんだ、お父さん」

首をひねる佑の背中越しに、母の⑦感たに堪えないというような声があった。振り返ると涙ぐんでいる。

「おばあちゃんね、亡くなる前に、セミの羽化うかが見たいって言い出したことがあってね」

「あ、そうだったよね。だから佑、一緒に幼虫探いっしょしに行ったじゃん」

理子も思いだしたように続けた。その言葉に佑の頭の中でも、記憶がぱちんとはじけた。

「あ、あったかも」

ジージー。

ふってくるようなセミの声の中、理子と幼虫を探したのは、三年前のお盆過ぎのことだった。

佑の住んでいる団地は、敷地内に桜の木がたくさん植えてある。春には枝がしなるほどの花を咲かせる桜が、夏にはぎっしりのセミで震える。当然、土の中にはたくさん幼虫が眠っていて、抜け殻があちこちに落ちていて、父親がビールのつまみによく食べる、**B**した空豆そらまめのから揚げあみたいなの殻だ。その殻に、たまに中身が入っていることがある。それが、羽化するために、土から出てきたばかりの幼虫だ。

この幼虫をそっと持ち帰って、虫かごの中でや、網戸あみどにつかまらせて羽化させたことが、何度かあった。殻を破るときに、触ったりしなければ、セミは無事に飛び立っていく。

「おばあちゃんが、見たいんだって。羽化するところ」

あの夏の日、佑はそう言う理子に連れられて、幼虫を探して団地の植え込みに目を凝らしたのだった。けれども探してみると、案外いないもので、一時間近くも**C**した。

「あのときの羽化は本当にきれいだったよねえ」

理子はうっとりとした目で、佑に同意を求めたが、**⑧**佑はうなずくことができなかった。

「見てない」

「え、そうだったけ？」

理子は一瞬ひねりかけた首を、軽くたてに振った。

「あ、そうだったね。佑、行かなかったんだ。テレビを見たいとかなんとか言ってる」

あのとき、「早くしないと、羽化が始まる」とせかす理子から離れて、佑はひとりで家に帰った。確かに見たいアニメもあったからだが、それよりも、病院が怖かった。日に日に弱っていく祖母の姿を見るのが嫌だったのだ。その少し前から、佑は入院中の祖母をたずねるのが億劫おっくうになっていった。

「やばかったよ。めっちゃきれいだったんだから」
「めんどうで気が進まないさま。」

あの日、理子は、先に見舞いに行っていた母や祖父と一緒に羽化を見たのだという。

「殻が割れて、ゆっくりと真っ白な羽が出てきたの。初めはぬれた**④**絹糸きぬいとみたいだったけど、すぐに白いレースみたいに広がった。それが、見ている間にすきとおった緑色をおびたの。エメラルド細工さいくみたいだったんだから」

「あれは、おばあちゃんにも、いいなぐさめになったわね」

母も、祖父が幼虫を**⑤**収めたプラスチックケースをいとおしそうに見た。

祖父が突然求肥を食べたのは、ケースを空にするためだったのだろう。食欲の衝動を抑えきれなかったわけではなかったのだ。

お年寄りのやることには、やっぱり意味がある。

見つけた幼虫を持って、祖母の墓まで戻った。供えたばかりの花の茎につかまらせると、幼虫はしっかりと茎を握った。

⑨無事に羽化できますように。

佑は両手を合わせた。

(まはら三桃「奮闘するたすく」)

問一 ㉠㉡の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 ①「よどみのない」、⑥「拍子抜け」、⑦「感に堪えない」の意味として最も適当なものを次からそれぞれ選び、記号で答

えなさい。

①よどみのない

⑥拍子抜け

⑦感に堪えない

ア スムーズな

ア 気ははれる

ア とてもおかしくて、その気持ちを表に出さずにはいられない

イ ダイナミックな

イ 気がぬける

イ とても悲しくて、その気持ちを表に出さずにはいられない

ウ デリケートな

ウ 気がひける

ウ とても感動して、その気持ちを表に出さずにはいられない

エ ワンパターンな

エ 気がめいる

エ とても腹が立って、その気持ちを表に出さずにはいられない

問三 ②「佑は肩を落とす」、③「両親は悔しがり」、④「理子は受験生らしい指摘をした」のように、祖父に対して家族はなぜ

このような反応をしたと考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア あとで持って帰ろうと思っていたお供え物を祖父にとられたから。

イ 祖父が家族と交わした約束を最後まで守ることができなかったから。

ウ 今日の祖父は最後まで完璧な行動ができるだろうと期待していたから。

エ 祖父の行動によって理子が受験に合格できなくなると思ったから。

問四 **A** **C** に当てはまる言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア もりもり イ かりかり ウ うろろう エ もごもご

問五 —— ⑤ 「こっちから見たら、わけがわからなくても、お年寄りのやっていることには、意味がある」とありますが、結局祖父の行動にはどのような意味があったのですか。それを説明した次の文の空らん^{らん}に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ指定の字数で探し、書きぬきなさい。

祖父が供えたばかりの和菓子を **1** (三字) のは、和菓子のケースに **2** (五字) を入れるためであった。

問六 —— ⑧ 「佑はうなずくことができなかった」とありますが、佑がうなずくことができなかった理由を説明した次の文の空らん^{らん}に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ指定の字数で探し、書きぬきなさい。

姉にはあのととき **あ** (七字) からと言ったが、実際はしだいに **い** (九字) を見たくなくて病院に行かず、家に帰ったため、その様子を見ていないから。

問七 —— ⑨ 「無事に羽化できますように」とありますが、このときの佑はどのような思いであったと考えられますか。佑の思いを説明した次の文の空らん^{らん}に当てはまる言葉を、それぞれ五字以上十字以内で考えて答えなさい。

祖母にもう一度セミの美しい羽化を見せたいという祖父の思いを **1** と思うと同時に、かつて祖母のそばでセミの羽化を見ることができなかつたことで、祖母に対して **2** 思いがあり、今度こそ一緒に羽化を見たいと願っていると考えられる。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の語句の□にあてまる共通する漢字一字をそれぞれ書きなさい。

- ・ 後は野となれ□となれ
 - ・ □にたこができる
 - ・ □聞は一見にしかず
- ① ・ 海千□千
- ② ・ 馬□東風
- ③ ・ □発□中
- ・ 他□の石
 - ・ □が痛い
 - ・ 五十歩□歩

問二 次にあげる熟語の(1) 読みをひらがなで書き、(2) その読み方にあてはまるものを後のア～オから一つずつ選び、それぞれ

記号で答えなさい。

- ① 八百屋 ② 国際 ③ 味方

ア 音読み＋音読み イ 訓読み＋訓読み ウ 重箱読みじゅうばくしよ エ 湯桶読みゆどう オ 熟字訓じゆくじくん

問三 次のカタカナの漢字と(1) 同じ漢字のものを記号で選び、(2) その漢字の総画数を漢数字で書きなさい。

① 練習の成果を発キする。

② 試合はエン長戦に入った。

- ア 今朝はキ温が高い。
- ア 旅行はエン期された。
- イ 指キ者の指示に従う。
- イ コロナでエン安になる。
- ウ 高キな身分の人。
- ウ 周りから敬エンされてしまう。
- エ 約束のキ日が来た。
- エ 姉のピアノのエン奏は素晴らしかった。

③ 全国で教育改カクが進む。

④ 絵画のテン覧会に出かける。

- ア 道を直カクに曲がる。
- ア ぐずついた天気が好テンする。
- イ 弘前城ひろさきじょうの天守カクをのぞむ。
- イ 原生林がテン在する。
- ウ 学校にカク自で集合する。
- ウ 文化祭でクラス作品のテン示をする。
- エ 野球界にカク命を起こす。
- エ 商品をテン頭販売はんばいする。

